



ズバツと!

Q&A

「脳卒中」とはどんな病気?

日本人の死因の上位を占め、「三大疾病」と呼ばれるがん、心疾患、脳卒中。このうち脳卒中は、高齢になるほど発症率が高いそうです。脳卒中について、甲府脳神経外科病院院長の篠原毅之医師に聞きました。



甲府脳神経外科病院
院長
篠原 毅之さん

しのはら・たかゆきさん

日本脳神経外科学会専門医、脳神経血管内治療専門医。
日本脳神経外科学会、日本脳血管内治療学会、日本脳
神経外科コンgres、日本脳ドック学会所属。



「脳卒中」は具体的にはどんな病気なのですか?



脳卒中は脳の血管が詰まる「脳梗塞」と、脳の血管が破れる「脳出血」「くも膜下出血」に分けられます。シニアの場合は脳梗塞の発症が多く、約7割を占めるといわれています。



シニアは脳梗塞の発症が多いのですね。
特徴を教えてください。



脳梗塞は、まひや言語障害、ろれつが回らないといった構音障害、認知機能の低下など、血管が詰まる場所によってさまざまな症状が見られます。箸が持てない、食べ物をこぼす、会話が成立しないなど認知症の症状と似ている場合もありますが、突然症状が現れた場合は脳梗塞の可能性が高いです。脳梗塞の治療は、時間との勝負です。発症から早い段階であれば血栓を溶かす薬を使えます。カテーテルで詰まった血栓を取るケースもありますが、いずれにしても症状が現れたら早期の受診を心掛けてください。



脳出血とくも膜下出血の症状は。



脳出血は、頭痛や嘔吐、^{おうと} 血圧の上昇、まひ、言葉の障害が現れます。呼び掛けても反応しないなどの意識障害が出るケースもあります。くも膜下出血は今まで感じたことがないような激しい頭痛や嘔吐、意識障害が出る人もいます。



予防法はありますか。



脳梗塞と脳出血の発症は、動脈硬化に関係します。加齢とともに動脈硬化は進行しますが、高血圧、糖尿病、高脂血症といった生活習慣病にも関わるため、日頃から健康診断を受け、体のメンテナンスをすることが大切です。適度な運動を心掛け、過度の飲酒、喫煙に気をつけましょう。くも膜下出血は、脳動脈瘤という脳の血管のこぶが破れると発症しますが、脳ドックで事前に発見することができます。脳ドックでは、血管が細くなっているなどの変化や隠れ脳梗塞も見つけることができますので、3~5年に1回のペースで受けることをお勧めします。